

桜の聖母短期大学
親と子の広場

小さなクラスの

🍒 さくらっこだよ！ 🍒

火・金曜日

11月号

10月にスタートした「小さなクラスのさくらっこ」。卒業生の方が、お子さんを連れて訪れて下さいました。そして、姉妹で子育て中の方も！どうぞ、実家に来るような気持ちで、らく～にお立ち寄りください。

お母さんたちは、笑顔で子どもに声を掛け、顔を見つめてたくさん働きかけている様子を見て「えらいな～」と思わずにはいられませんでした。たまには子どもを誰かに託して「ふー」と息を吐いて、ご自分を解放してあげてくださいね。子育て中は、24時間休めない毎日でしょうから。

スタッフも学生も、喜んでお子さんと遊びますので！

それでは、10月のさくらっこ(平日)の様子を見てみましょう。

いつもさくらっこを応援してくれている学長先生と、土曜日にお手伝いをして下さっている菅野さんが、初日のお祝いに駆けつけてくれました。

学生もたくさん参加して、3ヶ月と4ヶ月と3歳のかわいい3人に「はじめまして」のご挨拶。

賑やか過ぎて子ども達は興奮気味だったかな？
夜泣きしないといいな・・・と心配していました。



こころの安全基地 ～愛着の重要性～

子どもからみたと、最初に情緒的な深いかかわりを形成する人が、いわば「人間」の代表選手である。子どもにとっては母親がどのように自分にかかわってくれるかによって「人間一般」に対する信頼感の形成が左右されることになる。つまり、お腹がすいた、喉が渇いた、眠い、暑い、寒い、おむつが汚れて気持ちが悪い、一緒に遊ぼうよ、などのメッセージをもつときに赤ん坊は「泣く」「呼ぶ」「微笑む」「しがみつく」「追う」などの表現手段で表す。その時に母親はその子独自の行動スタイルを手がかりにして、いま何を欲しているかを正確に感じ取り、読み取り、それに対して適切にかつ速やかに応じる。そうすると、赤ん坊は自分が発したサインが直面している問題の解決を導いたことに満足し「人間は基本的に信頼していいのだ」と思うようになる。またこれからも何か困ったことが起こったときには、自分から発信すれば母親はやってきてくれて、状況を改善してくれるのだと思い自信を持つ。それは母親への信頼感を基盤にして困難な状況を自らの意思で切り開いていくことができるという、**自己効力感**の形成につながっていく。

このように母親との最初の人間関係が信頼に満ち、愛情あふれるあたたかいものであるならば、子どもは「人は基本的に信頼して近づいていってよいのだ」とわかり、母親以外の人との間にも母親との関係と似た良好な人間関係をつくっていかうとする。

反対に最初の人間関係である母親との関係が不安定で敵意や憎しみに満ち、こちらからいくら信号を送ってもめったに回答してくれることなく、冷たくギスギスとしたものである場合には、子どもは「人は基本的に信頼できないものだ、いつ裏切られるかわからない」との思いを強くして、母親以外の人との関係もそのような構えをもって近づき、良好な人間関係を作ることが難しくなってしまう。

このように乳幼児期の子どもと母親との関係は、子どもにとって最初の人間関係を形成し、その後の仲間関係や異性との関係、社会での上司と部下との関係など、あらゆる人間関係の原型としての意味をもつものとなる。

「新保育学」南山堂

岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子・武田京子・吉川はる奈 著



3歳になったばかりのSくん。
道路で車を走らせたり、ひっつき虫をそーっと穴から引っ張り出したり、あれこれ興味がいっぱい！
「やってみる」その気持ちが大事。
ひっつき虫は、直接手で触らず磁石のついた棒を使います。

面白いけどちょっと怖い!?みんなを驚かすSくん。
学生もスタッフも「きゃー」と逃げるので大喜び!!



お料理してくれるAくん。いつもお母さんがしていることを見ているんですね。みんなでご馳走してもらおうと待っていると…
あらあら鍋をかぶり始めました！

Aくん：「スーパーロボットと一緒だ！」

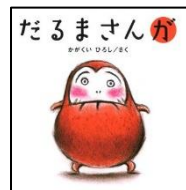
母：Aの大好きな絵本「おさるのジョージ」に出てくるんです。
お母さんは、Aくんのイメージの世界を丸ごと理解していて、

私たちに伝えてくれたので、同じイメージの世界で楽しめました。見立て遊びが大好きなAくん、もうすぐ3歳です！

10月に読んだ絵本



たまごのあかちゃん だるまさん
作：神沢 利子 作：かがくいひろ
絵：柳生 弦一郎 出版社：ブロン
出版社：福音館書店



が
し
ズ新社

おつきさ
作・絵：
出版社：



ま こんばんは
林 明子
福音館書店

お帰りの前にみんなで絵本を見ようと計画していましたが、遊びに来てくれた子どもの年齢を見ると、1対1で読んであげた方が良いと思う日がほとんどでした。学生も読み聞かせにチャレンジしています。お子さんがどんな顔で絵本を見ているか見てみてくださいね。そして、気に入った絵本がありましたら、どうぞおうちでも読んであげてください。

3歳位のお友達が来た時は、みんなで一緒に絵本をみましょうね。



1年生が、絵本を読んであげています。「見ているね～」とお母さんが仰っていました。

お母さんに暖かく見守られ、お姉さんの優しい声に耳を傾け、絵本をキョロキョロ。

活動内容について



土曜日は、みんなでする活動内容が毎週決まっていますが、火・金曜日は決まっています。火・金曜日は、3歳未満児が主なので、1対1の関わりを大切にしたいと考えています。

0・1歳児は、「みんなと一緒に、イヤ!」「順番、イヤ!」「貸してあげるの、イヤ!」な時期です。この頃は、あらゆるものが自分のもの、あらゆる人が自分を中心に動く・・・これが赤ちゃんが育つ理想の環境といえます。みんなからあやされ、愛され、かわいいかわいいと言われる。

そして、自分の欲求が満たされ、満足し、幸せ感に浸る。この基盤があるから「待つ」「譲る」「一緒に仲良く」ができるようになるのです。

10月のさくらっこのある日、お母さんとS君がケーキを作って遊んでいました。ホールケーキにフルーツやクリームを飾り、ろうそくを立て、楽しくおしゃべりしながらお誕生日のお祝いをする親子のワクワク感が伝わってきました。そして、手拍子しながら「♪ハッピーバースディ～」と歌が始まると・・・プレイルームにいた学生・お母さん達全員で大合唱!大きな拍手に包まれ、みんなに祝福され、満面の笑みのSくん。お家で3歳のお誕生日のお祝いをした嬉しさを、何度も再現して遊んでいた幸せな時間でした。

家庭で親との関係で十分満たされた子は、3歳くらいになると次第に同じくらいの子どもの興味を示し始めます。今は、友達とまく遊ばせたいと焦ることなく、その時のための基盤づくりと思って、親と子の1対1の愛情あふれた関わりを大切にしましょう。それが人間関係をうまく築くための第一歩で



う
だ
ま